

*APBFはアジア太平洋バプテスト連合の略称です。



今年2月から世界規模で拡大を続ける新型コロナウイルスの影響で、様々な集会が開催延期又は中止を余儀なくされていますが、APBFも例外ではありません。今年5月にバンコクで開催を予定していたAPBFリーダーサミットが、8月に延期されました。開催まであと2か月と迫っている中での延期は、苦渋の選択ではありましたが、多くの方が安心して参加できるよう、開催日を改め会議開催に向けて調整を進めています。さて、APBFリーダーサミットは今年が第1回目となります。これまでは、5年に一度開催されるAPBF大会総会が加盟団体代表が一堂に会することの出来る唯一の機会でした。しかし、各地域で山積する宣教課題を分かち合うには、5年に一度の会議ではあまりにも少なすぎます。加盟団体間の交流促進と協力体制強化し、アジア太平洋地域でのバプテスト宣教をさらに活性化することを目標に、リーダーサミットが企画されました。今期(18年~22年)、APBFは従来の宣教・神学・ソーシャルミニストリーの働きを統合的に機能させ、バプテスト宣教の草の根運動を率先することを目指しています。この目標はアジア太平洋地域の教会が一つのキリストの体につながる家族として互いに賜物を用いて互いに仕え、共に宣教するとき実現すると確信しています。現在APBFでは地域教会が直接宣教のパートナーとして繋がることの出来る環境作り(グローバルインパクトチャーチプログラム)を始めており、8月のリーダーサミットでは地域教会がどのようにAPBFを通してアジア太平洋地域宣教に参加できるのかが話し合われます。沖縄からもぜひご参加下さい。(各団体から2・3名の派遣を見込んでいます)

*APBFリーダーサミット開催予定日:2020年8月25・26日 開催地:タイ・バンコク

「流行する病の中で今」

平良 善郎 (安慶名教会)

今現在、世界中に荒れ狂う新型コロナウイルスの影響の中で、旅行やイベント、また学校行事の縮小など、多大な影響が世界で荒れ狂っている。感染が拡大し、多くの大切な命が失われている状況である。今、多くの教会で心から神に祈り、終息を願っているのではないか。ヨーロッパでペスト(黒死病)大流行した1527年、マルティン・ルターは自らが背負っていた多くの病で発作を繰り返し、うつ状態に苦しみながら歩んでいた。その年の8月、ルターが住んでいるウイッテンベルクはペストに襲われ、民衆も大学も街をはなれた。しかし、ルターは町にとどまり、我が家を病舎として提供した。「2日で12人が死んだ。ペストのど真ん中の我が家で私は暮らしている」と友人に便りを送っている。そのペスト影響でルターの長女エリザベスも亡くなった。ルターが1528年に作詞した讃美歌267番「神はわがやぐら」は、前年のペストの流行の痛みが、その背景となっている。「神はわがやぐら」の1、3番を紹介する。①「神はわがやぐら、わが強き盾、苦しめるとき、近きたすげぞ。おのが力おのが知恵を たのみとせる 陰府の長よ ほえ猛りて 迫り来とも、主のさばきは 汝がうえにあり。」。私たちは新型コロナウイルスが荒れ狂う現実の中で、「神はわがやぐら」と賛美しつつ、試練に耐え忍び、主を見上げつつ、希望をもって共に歩んでいこう。

バプテスマおめでとう!

◆ジョイチャペル	濱川 司 摩	2019年 12月15日
〃	濱川 司 樹	〃
〃	伊波 は な	〃
〃	渡 口 あすか	〃
◆サンセットチャーチ	坂 愛太郎	2020年 1月1日
◆ジョイチャペル	當 眞 ま さ	1月15日
〃	濱 門 かすみ	1月19日

【報告】

胡屋教会に副牧師が3月1日に就任されました。郭 永東(カク・ヨンドン)牧師 The Korian Church in Dallas (ダラス韓国教会) サウス・ウエスタン・バプテスト神学校博士課程在学(5月卒業予定) ご家族は妻ユン・ソヨン、娘カク・イエナ(3才)。

連盟のスケジュール

4月	6日(月) 牧師朝禱会
	5日(日)~11日(土) 受難週
	12日(日) イースター
5月	11日(月) 牧師朝禱会
	23日(土) OBC女性会総会

バプテスト・アワー (毎日曜日/午前6時25分~35分)

■4月のテーマ「イースター」	ゲスト 比嘉康子(那覇教会)
■5月のテーマ「家族」	ゲスト 大長幸一郎(牧港中央教会)

ラジオ沖縄	沖縄本島 AM86.4KHz
宮古	伊良部 FM84.1MHz
八重山	多良間 FM83.6MHz
石垣	石垣 FM87.8MHz
西表	西表 FM81.5MHz



『人材育成 ~みな私のようにってほしい~』

胡屋バプテスト教会 牧師 渡真利 彦文



「パウロは言った。『短い時間であろうと長い時間であろうと、王ばかりでなく、今日この話を聞いてくださるすべての方が、私のようにってくださることを神に祈ります。このように鎖につながることは別ですが。』(使徒言行録26:29)

神の言葉を聞いた時、どう反応するかはとても重要です。アテネのアレオパゴスでパウロが神の言葉を語ったとき、それを聞いた人々の反応は「それについては、いずれまた聞かせてもらうことにしよう」というものでした(使徒言行録17:32)。こんな例がなんと多いことでしょうか。

パウロのあかしを聞いた前総督フェリクスとその妻のドルシラの反応は「今回はこれで帰ってよろしい。また適当な機会に呼び出すことにする(使徒言行録24:25)でしたが、もちろんまた呼び出すようなことはなく、ただ、決断を先伸ばしにしたに過ぎません。

そしてアグリッパ王も同じような反応を見せたのでした(使徒言行録26:28)。彼はパウロの説いた福音を聞き、苦しまぎれに「短い時間でわたしを説き伏せて。キリスト信者にしてしまうつもりか」と言ってごまかすのです。人はしばしば、ここぞという時、とかく決断を避けようとするのです。

これに対するパウロの答えは「短い時間であろうと長い時間であろうと、王ばかりでなく、今日この話を聞いてくださるすべての方が、私のようにってくださることを神に祈りま

す(使徒言行録26:29)でした。これは救いと恵みを体験し、その幸いに生きている者が持つ共通の願いといえるでしょう。これこそは伝道と救霊の原点でもあると思うからです。

私たち沖縄バプテスト連盟は、2019年度・2020年度の2年間、「人材育成」を年間主題に掲げています。人材育成は普遍的な課題といってもよいでしょう。沖縄バプテストの新聞を遡って読むと「人材育成」を課題として取り組んでいる様子を見ることができます。古今東西そして時空を超えて「人材育成」は大切なテーマであることは言うまでもありません。

では私たちはどのような人材を育てていきたいのでしょうか。牧師・宣教師・伝道者などの献身者、各分野のリーダー、様々な賜物を持つ器などが思い浮かびます。しかし使徒言行録のみ言葉は3つの大事な基本を示しています。第一に決断する力を養うことです。第二は神のみ言葉に聴く、神の啓示への応答する力を養うことです。第三に福音そのものに本気で生きる力を養うことです。それぞれ3つの力は「短い時間であろうと長い時間であろうと、今日」、そして「今日この話を聞いてくださる」、さらに「私のようにって」という言葉によって示されています。ではどのようにして「決断と神の啓示への応答と模範となる」3つの力を養うことができるでしょうか。それは礼拝の場で神と繋がることによって神の声を聴き、救われる者となり、成長する者となることのできるのです。神に結ばれてこそ力を得ることができるのです。

私は牧師になって30年を迎えますが、「人づくりは礼拝が基本だ」とつくづく思われています。誰であれ、礼拝を通して神と結ばれるなら主の器となります。連盟諸教会・伝道所の礼拝の祝福を祈ります。

「若者を歩むべき道の初めに教育せよ。年老いてもそこからそれることがないであろう。」(新共同訳箴言22章6節)

OBC青年会 2019年度を振り返って

青年会役員 長山 満 (礼邦教会)

主の御名を賛美します。2019年度の青年会は、7つの集会を通して聖書の学びと交わりを行なってきました。各集会で寄せられた証しの一部を掲載いたします。

◆人材育成セミナー～宣教って何？～◆

「神様が何のためにこの世界を創造したのか、私たちに与えられた使命を改めて知ることができました。またその中で、目からうるこな新しい知識も与えられました。

まずは聖書をよく読んで教えを学び、神様との関係の回復から宣教を始めたいと思います。」



◆クリスマスコンサート◆

「久しぶりに教会に来て、初めてのコンサート、とても良い時間を過ごせました。ありがとうございました。心が洗われる感じがしました。不思議と涙が出ました。賛美、メッセージ、バイオリン、歌、ゲーム、トーンチャイム、全て良かったです。友人のお誘いで来ましたが、また機会があれば是非参加させて頂きたいと思います。」



◆年末キャンプ◆

「初のOBC青年キャンプの参加でした。メッセージやデボーションでは、神さまにとっても語られ、新しい一年の歩みが始まる前に、神さまとの時間を持って幸せでした。また、青年たちとの交わりも最高でした。一人一人がメッセージから受け取ったことを分かち合えるのは、神様からの最高のプレゼント！感謝でいっぱいです。」



【一年を振り返って】

「神様の御心を行う」という主題に沿って、青年の方々と共に学び・交わりを持つことが出来たことに感謝します。青年との交わりを通していつも感じたことは、一人一人が日々迷い・悩み・戦っているということでした。しかしその分だけ、あるいはそれ以上に神様を求めている姿が見えました。これもまた神様の御心を行う姿だったのではないかと振り返ります。2020年度は共に支え合い、共に祈り合う関係を更に築き上げられるようにと願います。まだ青年会の集会に参加したことのない兄弟も喜んで歓迎いたします！2020年度も主の栄光が全世界に現れますように。

「人生で最も価値あるもの」

底原 英仁 (八重山教会)



いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて神があなたがたに望んでおられることです。(第一テサロニケの信徒の手紙5章16-18節)

「習い性となる」という言葉があります。意図する善悪の習慣は人の一生に多大な影響を与えるものです。

わたしは幼少期から教会へ出入りし、極めてまじめな少年だったように思います。勿論、信仰云々ではなく教会学校の茶菓に誘われたのがきっかけでした。

遠い昔の話で記憶は少し飛びますが、若い先生がイエス様の十字架と復活について口角泡を飛ばし、子どもたちに熱心に語りかけていたのを今でも鮮明に覚えています。しかし、わたしの信仰心は長続きしませんでした。中学、高校と内面の罪深さに気づきながら悔い改めることなく熱くも、冷たくもない実に生ぬるい、この世に迎合する不真面目なクリスチャン少年でした。結局、多感な青春期には教会から離れ、オートバイ仲間たちとの交遊に明け暮れる毎日でした。「友達が悪ければ良い習慣が損なわれます。」とパウロは言いましたが、今ふり返れば、このときから人生の歯車が微妙に狂い始めたように思います。

やがて、わたしは人並みに、就職をし、結婚もしました。それからまもなくして、自分の至らなさとは言え、予期せぬ離婚という人生最大の修羅場を経験することになったのです。あの時は、これまでのすべての出会いが無に帰したような人生の儚さと虚しさには心は萎え、失望の毎日でした。わたしはもだえ苦しみながら、生き抜く知恵のないまま自分を見失い、心の空虚を埋めるために酒に溺れていきました。「人は好みによって滅びる」と言いますが、酒こそ、わたしを墮落させる人生最大の陥穽でした。糸の切れたタコのように、羅針盤を失い大海を漂流する幽霊船のような人生、これが神から離れた当時のわたしの現実だったのです。罪の結果とはいえ壊れていく、自分の身体と人生……。

「わたしはなんと惨めな人間なのでしょう。死に定められたこの体から、だれがわたしを救ってくれるでしょうか。」(ローマ7:24) これはパウロのみならず、私のところからの叫びでした。しかし、驚きですが、わたしが神様のことを忘れていても、神様はわたしのことを覚えていてくれたのです。

そのことを知ったのは、同じ職場でのクリスチャンとの出会いでした。当時、わたしは旅客バスの運転手として働いておりました。同僚のその方は仕事の合間に車中で聖書を読み、祈ることを日課にしていたようです。飾り気のないその方の普段着の信仰姿勢に憧憬の思いをもって見るようになり、ある時、思い切って声をかけてみました。不思議なことにわたしはその方との交わりを通して今まで忘れていた人の温かさに触れ、冷え切った心が何かに触れられているように熱く燃えていくのを感じました。わたしは心の虚しさを満たすために、これまで過ぎ去るこの世のものを最高の価値としてむさぼるように求めてきました。しかし、同僚の彼女との出会いを通して、幼いころ聞いたイエス・キリストの十字架と復活の話や、温かい教会を思い出し、人生で最も価値あるものは「神と共に歩む人生」であることに気づき悔い改めて主イエスを生涯の救い主として受け入れました。

1997年8月3日、八重山バプテスト教会の照山牧師の司式により受洗の恵みにあずかり今は、罪赦されたものとしていつも神を喜び、神に感謝し、神に祈る毎日をご過ごしています。

それゆけ男性会

2019年度も神の恵みに感謝！

屋比久 晃 (那覇教会)

主の御名を心から賛美します。2019年度もOBC男性会の活動が恵みの内に導かれ、祝福されましたことを心から感謝いたします。その活動の足跡を報告させていただきます。

2019年度主題「信仰と愛と行いを現す」

2019年度聖句「私の兄弟たち。だれかが自分には信仰があると言っても、その人に行かないなら、何の役に立ちましょう」(ヤコブ2:14)



- 5月19日(日)3pm~ 2019年度定期総会(23名参加) 場所: 連盟事務所
- 7月21日(日)2:30pm~ 礼邦教会・教会訪問(23名参加) 場所: 連盟事務所
- 9月28日(土)2pm~ OBCグランドゴルフ大会(13名参加) 場所: 沖縄市屋内運動場
- 11月17日(日)3pm~ 善隣伝道所・教会訪問(27名参加) 場所: 善隣伝道所
- 1月19日(日)2:30pm~ 新年交流会(16名参加) 場所: 那覇教会
- 3月20日(金)~22日(日) 宮古教会 教会訪問・特別福音宣伝集会(15名参加) 場所: 宮古教会

神の恵みと祝福の中、恵まれた集いが導かれました。お祈りを心から感謝いたします。2020年度も男性会の交わりを豊かにし、力強く共に前進していきましょう！

バプテスト教会の特徴(1)

平良 善郎 (安慶名教会)



今年度からバプテスト新聞において、バプテスト教会の信仰と題して、その特徴を連載したいと考える。その特徴というのはバプテスト教会の教会論ということができる。聖書論に関しては、公同の教会と等しく正統神学に立っていることを告白するために、1646年に出された「ウエストミンスター信仰告白」の聖書論を取り入れ、私たちバプテスト教会はカルヴァン主義的聖書解釈をしてきた群れである。

そして、私たちバプテスト教会の特徴というべき、その姿は、やはり、教会論にあると考える。そのバプテスト教会の教会論的特徴を、この紙面を通して連載したいと考える。今回はその連載するにあたり、どのような特徴を連載するかを掲載したい。

- I. バプテスト教会とは(信徒の教会)
- II. 信仰者のバプテスマ(幼児洗礼否定)
- III. 「教会の約束」の意義

以上のようなバプテスト教会の特徴を掲載し、バプテスト教会に神が導かれ、その教会の枝として歩んでいる兄弟姉妹が、自らの教会の良き特徴を理解することは大切なことである。沖縄バプテスト連盟信徒手帳(2009年改訂版)にも、バプテストの信仰(11p)が掲載されているが、それを補足するようなかたちで連載したいと考えている。

まだ信徒手帳を読んだことがない兄弟姉妹がおりますならば、一読することをお勧めする。次回、『I. バプテスト教会とは(信徒の教会)』から掲載し始める。果して「信徒の教会」とはということであろうか？バプテスト教会において「牧師」とはどのような位置なのであろうか？お楽しみに！



沖縄から世界へ・・・福音を翼にのせて シャローム

沖縄バプテスト連盟女性会 〒903-0116 中頭郡西原町幸地1019-1 TEL/Fax 098-917-1028 E-mail: obc wd1956@gmail.com

会長挨拶

「主にささげて生きる～キリストの愛に押し出されて」

金城 和江 (石嶺教会)

主題聖句 「主を畏れ、心を尽くし、まことをもって主に仕えなさい。主がいかに偉大なことをあなたたちに示されたかを悟りなさい」(サムエル記上12章24節)

新年度を迎え、OBC女性会は「主にささげて生きる～キリストの愛に押し出されて」の主題を掲げての2年目の歩みを始めます。女性会の皆様が、それぞれの日々の生活の中で、なお深くこの主題を覚えていくことのできる一年となれば幸いです。

OBC女性会の一年の歩みを振り返る時に、そこにはいつも神さまからの時になかった備えと助けがありました。私たちは、難しそうなることはなるべく避けて通りたいと思いがちですが、難しそうで大きく見える課題を受け取るということは、「主に依り頼み、その偉大な力によって強くされる」ことを学ばせていただく機会となり、それがまた恵みであると気づかされます。

OBC女性会の各地区も各委員会も役員会もぶどうの実の一粒一粒。それらが合わさり、ひと房となってOBC女性会の働きを形づくりまします。今年度もそれぞれの働きの上に神さまの力が注がれて充実し、豊かな実として成長していくことができますようにと祈ります。

各教会女性会の上に神さまの祝福とお導きが豊かにありますように。私たちは新しい一年を、励まして押し出して下さる主に依り頼んで、持てるものを主にささげて共に歩んで参りましょう。OBC女性会としての連帯と協力がますます強められて、福音宣教の働きを共に担わせていただきますように。

【第2回 HEIWAミーティング報告】

南部地区委員会 柴田 かおり (首里教会)

2020年2月24日(月・休)午前10～12時、連盟事務所で「第2回HEIWAミーティング」を開催しました。6教会20名の姉妹が集まり、共に聖書に聴き、賛美し、語り合い、祈りを合わせた時となりました。石原艶子姉は、「平和をつくる一人一人になりましょう」と題してお話されました。イエス・キリストが「ご自分を無にして僕の身分となり、十字架の死に至るまで従順であった」その信仰・真実に応えて生きる者として、人とつながり、共に生きる神の国の成就のために、たとえ一人でも行動していくのがクリスチャンの生き方ではないかと語りかけられました。そして、そうやって祈り、行動するとき、共に祈り、行動する仲間が与えられ、キリストの愛によってつながる豊かな人生が与えられてきたと、ご自身の人生を振り返って語って下さいました。

石原艶子姉のお話を受けて6～7名に分かれたグループディスカッションでは、それぞれの戦争経験や思いを語り合う豊かな時間となりました。以下、引用します。

「責任を負う怖さから逃げずに自分の負える責任を担っていきたい」「弱者を排除する社会でなく、共に生きる場とするために何が出来るか?」「忘れず祈り家庭で反戦を言い続けたい」「非暴力で人間対人間として関わり、連帯することが大事」「5人姉妹で1人残された。姉妹を思いゴスペルを歌いに行っている」「知ることが大事。戦争は起こらないと思っている若者に知らせたい」「基地に関係が深い生活で疑問に思わなかった。祈りつつ、行動したい」「『一人の重要性』というお話に勇気をいただいた。戦後、何もない生活から立ち上がってきた大人たちを忘れない」最後に私たちにも出来ることとして、OBC女性会で辺野古ツアー、遠慮せずに戦争経験や戦後経験を語れるゆんたく広場、などが出されました。もちろん、HEIWAミーティングは継続して行っていきたいと思っています。



石原艶子姉

